

平成22年度図書館情報メディア研究科プロジェクト研究 研究成果報告書

種 目	萌芽研究	500千円	研究代表者 氏 名	白井哲哉
研究課題	近代公文書アーカイブズ資料群の形成過程及び構造に関する調査研究			
研究組織（研究代表者及び研究分担者）				
氏 名	所属研究機関・部 局・職	現在の専門	役割分担	
研究目的				
<p>本研究は、日本の近代公文書アーカイブズ資料群につき、その資料群の形成過程とび内容構造に関する分析を行い、日本アーカイブズ学研究の進展に寄与しようとするもので、4年程度の期間を想定している。具体的には、東京都立川市役所所蔵（立川市歴史民俗資料館保管）の旧砂川村役場文書（約1,800点）につき、研究会（10名参加予定）を組織して次の4つの研究活動を実施する。①資料群の全体把握のため総目録の作成。②資料群の大半は多量の公文書を合綴した簿冊であるので、各簿冊の収録文書に関する件名目録の作成。③立川市役所行政文書のうち、旧砂川村に関する永年保存文書の調査と目録の作成。④前期3種類の目録に基づき、資料群の形成過程、役場組織を踏まえた資料群の構造把握、文書の内容分析を実施する。</p>				
研究成果				
<p>平成22年度は、東京都立川市役所所蔵の旧砂川村役場文書（立川市歴史民俗資料館保管、約1,400点）及び立川市役所永年保存文書（立川市文書法政課管理、約150点）につき、研究会（15名参加）を組織して下記の研究活動を実施した。①資料群の全体把握のため総目録の作成（終了）。②各簿冊の収録文書に関する件名目録の作成（作業継続中）。③立川市役所行政文書のうち、旧砂川村に関する永年保存文書の調査と目録の作成（所在調査終了）。</p> <p>公文書群の作成時期は、明治4年（1871）のいわゆる目地4年式戸籍の一部から、昭和30年前半（1950年代後半）の砂川闘争関係文書群までに至る。文書群の点数は上記の通りである。構造及び内容の分析は今後の課題であるが、特に砂川闘争関係では、全国から砂川村役場に寄せられた「激励電報」の簿冊7冊をはじめ、従来全く知られてこなかった資料群が確認されつつある。また立川市役所永年保存文書については、これまで全く調査の手が及ばなかった公文書群を調査することができ、昭和戦前期の砂川村における青年学校関係資料を確認するなど、多くの成果を挙げることができた。</p>				
代表的な研究発表・特許等の成果一覧、特記事項等				
<p>本研究成果に基づいて科学研究費補助金の申請を行い、基盤研究（B）「近代公文書アーカイブズ構造と情報に関する学際的総合研究」（平成23年度～25年度）の交付が決定した。</p>				